

## 第1回まんのう町地域公共交通計画策定に係る協議会 会議録（要約）

1 開催日時 令和5年5月2日（火曜日）14時00分から15時10分

2 開催場所 まんのう町役場 3階 大会議室

3 出席者

<委員> 18名

<代理出席> 1名

<まんのう町長>

<事務局> 3名

4 欠席者

<委員> 3名

5 協議事項

(1) 協議会役員を選任について

(2) 諮問

(3) まんのう町地域公共交通計画策定方針について 資料3 資料4

(4) 策定スケジュールについて 資料5

(5) その他

## 6 議事録(要約)

### 【事務局】

本日の協議会は、委員ご本人様が23名中18名ご出席をいただいております、まんのう町地域公共交通活性化協議会設置要綱第7条第2項の規定により、会議が成立していることを報告。

#### (1) 協議会役員の選任について

協議会役員の選任については、まんのう町地域公共交通活性化協議会設置要綱第5条第1項の規定により、委員の互選によってこれを定めるとされているが、第1回の協議会ということもあるため、事務局案を提示。

会長、副会長、監査2名の提案に対し異議なし。

#### (2) 諮問

町長から会長に諮問書を読み上げ、諮問書を会長へ手渡す。

#### (3) まんのう町地域公共交通計画策定方針について (資料3)(資料4)

資料3 まんのう町地域公共交通活性化協議会(案)

資料4 まんのう町地域公共交通計画策定事業(案)について説明(事務局)

### 【委員A】

まんのう町地域公共交通活性化協議会(案)の中で地域の交通が示されていて、鉄道、バス交通、その他と生活交通路線の確保は示されているが、空港のほうに行く空港リムジンバスは、まんのう町役場にもバス停がある。利用者が利用しやすいようなまんのう町の交通計画を作っていくのであれば、空港リムジンバスも含めて議論していったらどうか。

### 【会長】

本協議会では、生活交通に関することが議論の中心となると考えられるが、非日常的な交通も含めたほうが良い。まんのう町には、まんのう公園があり、昨今、外国人観光客が公共交通を利用して来られるようであるため、無視できないと考えている。

今後、計画を策定するにあたり、現時点で想定していること以外にも、検討すべき事項が出てくると思うので、皆様方でご検討いただきながら、進めていきたいと考えている。皆様方で、気づきがあればご意見いただきたい。

### 【委員B】

まんのう町の中だけでなく、琴平駅のほうも含め、町外の人でもまんのう町に来ていただくようにすればよいのではないかと。

### 【会長】

まんのう町を発着するものも検討対象になると思うので、ご指摘いただいた点も意識しながら取り組んでいければと思う。

資料4の事業概要だが、案というかたちになるか。

**【事務局】**

資料4の交通計画策定事業（案）は、概ねこのスケジュールや内容でご検討いただけただらということで、事務局（案）としてお示ししている。

**【会長】**

いろいろ現状を把握していく中で課題がでてくると思うが、資料4の左の「4公共交通に関する課題の把握」にあがっている課題は、想定される課題というイメージだが、そういう認識でよいか。ここで想定されている課題は、抽象的であるという印象を持つ。具体的な課題を抽出できないと、まんのう町の地域課題の解決につながらないと思われる。そのため、今後、計画策定を行いながら、この資料であがっている課題にこだわらないという認識でよいか。

**【事務局】**

資料4に上がっている課題は、事務局で考えている案になるので、実際アンケート調査をすると隠れているニーズも出てくると思う。そういったニーズがでてくれば、課題のひとつとしてあげていきたい。広い範囲の計画になるので、どこまでということにはなるが、皆様のご意見をいただきながら審議していただきたい。

**【会長】**

計画策定の流れは、資料4のような感じになるので、これでやっていけばよいと思う。具体的に進めるにあたって、作業協力は依頼するのか。

**【事務局】**

これだけの事務量を事務局と委員の皆様で消化するのは難しいので、専門のコンサルタントを入れて、作業を進めていきたいと考えている。今、業者選定に向けてプロポーザルの準備をすすめている。次回の協議会くらいでは、業者をお伝えできるかと思うが、スケジュールが確定していないので決まり次第報告させていただきたいと思っている。

**(4) 策定スケジュールについて（資料5）**

資料5「令和5年度 まんのう町地域公共交通計画スケジュール（案）」について説明（事務局）

**【会長】**

お示しいただいたスケジュールで進めていくことになるが、スケジュールがかなりタイトなので、その辺が気になるが、いつまでに何をするかということを経務局が調整しながらすすめていくことになる。他の地域等の計画策定に関わっていると思うが、地域の課題をきちんと抽出できないと、課題解決に繋がらない。ど

こでもありそうな人口減少や高齢化・少子化というキーワードが地域課題として抽出されることが多いが、課題解決のために何をやる必要があるかに結びつけると、課題解決にはつながらないので、このような視点を踏まえて、課題をきちんと抽出して欲しいと考えている。課題を抽出する際には、住民の皆さまのご意見や実態などをしっかり把握する必要があると思っている。

**【委員 C】**

資料3の「新たな公共交通システムの導入」のところに、デマンドタクシーの見直し、共通パス券の見直しとあるが、見直しが必要と考えている理由があるのか。

**【事務局】**

見直しが必要な時期に来ているというところは、町で運行しているあいあいタクシーは、当初利用者数が1万人を超える利用があったが、昨今は、人口減少の影響もあると思うが、減少傾向にあり、利用者のニーズが少しづれてきているところが見えてきている。あいあいタクシーが、まんのう町内に限った移動ということで運行している都合上、近隣市町のほうに出向いていきたいという要望もでてきている。あいあいタクシーは、他の公共交通のとの接続が必要な乗り物になるので、一度見直しをかけてニーズと利用形態、持続可能性を念頭に置いて再度考え直したほうがよいのではないかとということで、記載させていただいている。

**【会長】**

15年前に今の公共交通システムがまんのう町に導入されたときは、あいあいタクシーは、琴参バスの路線バスに接続していて、あいあいタクシーと路線バスを利用して町外に出かけるというスキームではじまっていたと思うが、琴参バスの路線バスの便数などが減ってきて、あいあいタクシーと路線バスを乗り継いで利用が難しくなってきたところがあるように感じるが実際はどうか。

**【事務局】**

利用者が二極化しており、免許返納等で移動が難しい方があいあいタクシーのメインの利用者で、共通パス券は学生が多く使われていて、利用者の年齢層があいあいタクシーと路線バスというところでかけはなれているのが見受けられる。両方乗り継いでというところが、当初の計画とかけはなれていると認識しているので、一度見直しさせていただきたいと考えている。

**【会長】**

交通事業者から、利用者の状況などについて、現場の感覚などで構わないので、何かコメントがないか。

**【委員 D】**

町外の行き来は結構利用者があり、病院や買い物等、琴平町の方がまんのう町へ、まんのう町の方が琴平町へ行ったりとあきらかにたくさんいらしゃるので、この辺をうまく連携できるようなスキームがあればいいと思う。デマンドタクシーを運行させてもらっているし、琴平町で mobi というオンデマンド交通を最近始めて、観光のお客様の mobi の 1 日利用はあるが、利用者からエリアが琴平町内に限られているという声があるので、連携できたらと思っている。

**【会長】**

mobi は、スマートフォンなどで予約をすると迎えにきてくれるという仕組みになっている。他の事業者さんで利用者の印象などコメントできることがあればお願いしたい。

**【委員 A】**

路線バスでいうと、美合線・炭所線ともに学生の利用者が大半を占めていて、琴平から JR にのって、坂出や善通寺に向かう利用者が多い。デマンドタクシーと路線バスの共通バスを平成 21 年から導入しているが、定期券から共通バス券にシフトしている。去年度くらいをみると、通学生徒の定期券は多いが、通勤の定期券はほぼゼロである。理由としては、共通バス券は、商工会の加盟店で取り扱っているのが、非常に買いやすいところもあって共通バス券にシフトしている。MaaS 的な乗り継ぎができていないので見直しをして、路線バスとデマンドタクシーそれぞれが不足しているところを補うような新たなシステムがあれば、路線バスの利用者も増えるし、デマンドタクシーの利用も増えるのではないかと思う。

今後、乗降人数等もデータ提供もできるので、まんのう町の見直しがうまくできるように協力くさせていただく。

**【会長】**

共通バス券は、1 ヶ月 3,000 円支払うと、デマンドタクシーと路線バスが乗り放題という仕組みになっている。まんのう町の場合は、商工会の加盟店で購入できるという仕組みになっている。

住民の皆様方には、地元に戻っていただき、お知り合いにお会いする中で、バスやあいあいタクシーを利用している方の話をこの場でご紹介いただき、実際どうなっているかをみながら調整していきたいと思っている。

初回ですので、なかなか難しいところはあると思うが、これから一年間かけて、まんのう町の将来の公共交通、移動に関するイメージを作っていく流れになるのでご協力お願いしたい。

(5) その他

**【委員 D】**

まんのう町の方向性としては、行政負担額を下げ売り上げを上げていくパターンなのか、どういう仕組みで現状を改善していくと考えているか。

**【事務局】**

利用者数を増やして売り上げを上げるのが健全な運営の仕方だと思うが、人口減少や高齢化率がだいぶ進んでいることを鑑みると、事業形態を考えるとそれだけで運行を改善していくのは難しいと考えている。

ただ、今回の計画の中には行政負担額の率をどれくらいに抑えるという記述をすることとされているので、目標値としては定めさせていただくようにはなるが、それがすべてだと町も考えていない。持続的に運行していけるように、また、事業者さんの立場としても持続的に運行していただけるようなところを考えていかなければと思っているので理解いただきたい。

**【委員 D】**

事業者としても、単純に運行だけを担う事業者がいいのか、集客やPRといったところを一緒に担っていくみたいなことをしないとなかなか難しいと思っている。そのニーズがどれくらいかや、どういう方が利用しているかなどを、現状ではさほど事業者は携わることがない。行政と事業者側がやれることを考えていく形が望ましいと思っている。

**【事務局】**

特に、交通事業者さんが一番現場でやられているので、肌間が利用者のニーズに近いところかと思うので、忌憚のないご意見を今後もいただきたい。

**【会長】**

MaaS というキーワードがでてきたが、様々な交通機関をひとつのサービスのようにつなぐし、乗り継いで利用するというイメージのものが世界的にもでてきている。日本も遅れないようにということをやっているが、運賃をどう設定するかが、非常に大きな問題としてある。日本の場合、道路運送法の法律のからみやいろんな規制があり、運賃の決定がうまくいっていないところが多い。デンドタクシーや各地でやっているコミュニティバスなども、特段根拠がない中で運賃を決めていて、赤字分をどうするかもおぎなりにやっているところがある。費用がどれくらいかかって、料金負担はどれくらいで、残りはだれがどう負担するかを決めていかないと持続可能な運行は不可能であると思う。交通事業者に運行していただいて、たくさんの方が乗れば、それだけ交通事業者の利益になるということをやらないと、運行する交通事業者もやる気がでないのではないかと。そういうことを含めながら、日本全国で運賃の決め方を考えないといけないのではないかと。私を私の研究仲間と研究会を開いて議論を繰り返している。今年の6月で一回閉じることになるが、まだまだ議論しないといけないこともあると考えており、つぎは提案した方法を社会実装できるかを検討する段階である。

まんのう町が共通パスを導入した考え方が、他の自治体等と違う発想のように感じる。まんのう町での取組みがひとつの参考になる事例ではないかと思っている。交通事業者の皆さんや事務局にまんのう町の仕組みなどを教えていただきながら、よりよいものを作っていきたいと思っている。香川県の中でもまんのう町の取組みは、先進的であると昔から思っているのも、その伝統を大事にしつつ、今後さらによくしていくために、ぜひ皆様方にお力添えいただきたい。

**【事務局】**

資料1の目的のところになるが、この協議会は、交通計画をたてるためだけの協議会でなく、道路運送法上の協議会もかねさせていいただいている。運賃の協議もしていく協議会にもなっているので、交通事業者様から新たな事業展開についても相談いただいていることもあるので、協議会の中でご提案できることがあれば、第2回、3回の協議会の時に資料をご提示させていただくので、ご協議いただきたい。

《次回》

第2回まんのう町地域公共交通計画策定に係る協議会 7月開催予定